

「ピント外れの勉強」その一 「眺める勉強」^{なが}

一昨日今日と一、二年生が期末テストに取り組みました。テスト期間中は少し早めに登校する生徒がいるのと同じように、それを眺めながら（読みながら）参加する生徒がいるものです。北中の一、二年生はどうだろうかと思って、朝の会を巡視すると、私の見る限りではそういう生徒は一人もいませんでした。素晴らしいことだと私は感動しました。全員が心一つにして朝の会に参加している生徒たちはもちろん、全員を朝の会に参加させている担任にも拍手を送ります。

さあ、いよいよ「ピントの外れた勉強」について書こうかなと思います。実は、先に書いた「教科書や参考書を眺める（読む）勉強」が「ピントの外れた勉強」の一つだと筆者は書いています。

この眺める（読む）勉強をやっている本人は、勉強を最優先させ、一分一秒を惜しみながら取り組んでいるつもりなのでしよう。しかし、効果はまったくその逆。「ピントが外れた勉強」ならいくらやっても力は溜（た）まりません。溜まっていたのは、抜け駆けをしていることに対する仲間の不信感と、朝の会に集中していなかったことで学級の取り組みに真剣に参加していなかったという情けない事実だけです。

だったら、朝の会の時にやって「ピント外れ」なら、家庭学習として眺める（読む）勉強やったら「ピント外れ」にならないのではないか、という意見もあるかもしれませんが。実は筆者は、いつ、どこでやったとしても「眺める（読む）勉強」自体が「ピントの外れた勉強」だと言っているのです。

理由は至って簡単。眺めるだけでは、勉強の本質である「×を○にする」「できないことをできるようにする」ことはならないからです。朝の会中は言うまでもなく、家庭学習であっても眺める（読む）勉強をやっていたら、時間をかけても力はつかないということになってしまいます。

どうですか、あなたは家庭学習として、眺めるだけ、読むだけの勉強をしていますか。誤解しないでください。それなら教科書や参考書は使わないようにしようということではないのです。知識や情報を得るために教科書や参考書は大切ですが、それだけで学力が身に付くと思っ**てはいけません**ということです。ウォーミングアップだけを積み重ねても、試合には勝てる力は付きませんからね。

「ピントの外れた勉強」の一つ目が「眺める（読む）勉強」です。あなたは大丈夫ですか。その勉強ばかりをやっていませんか。「ピントの外れた勉強」はあと四つあります。順番に書いていきますから、あてはまってしまったら、ぜひとも改善してくださいね。

（二月二十四日 記）